

組織の情報セキュリティ管理

その学習支援と情報資産の管理をWebワークフローで 少しずつ段階的に、何回でも

ISO/IEC 27001 準拠

情報セキュリティ管理にお困りではありませんか？

ある中小、中堅の企業経営者：組織の情報セキュリティ管理がますます重要になると思い、研修や情報資産管理の作業をしようとしたのですが、、、。

- 社員が忙しく、
みなが集合可能な研修時間がとれなかった。
- 学ぶことや情報資産管理の作業が
たくさんありすぎるのでは。
- 研修コストや社員の作業コストも
かかりそうだ。



経営者

当社ではこのようにシステム提案をします



- 学習内容を適度な単位に分けます。これらの学習単位をWebで提供できるようにします。

このようにすることにより、少しずつ、場所や時間を選ばずに自己学習ができるようになります。スマホでも学べます。

- 情報資産管理に関する作業も細分化します。

これにより、煩雑な作業も学習同様、少しずつ段階的に（ワークフロー）進めることができます。

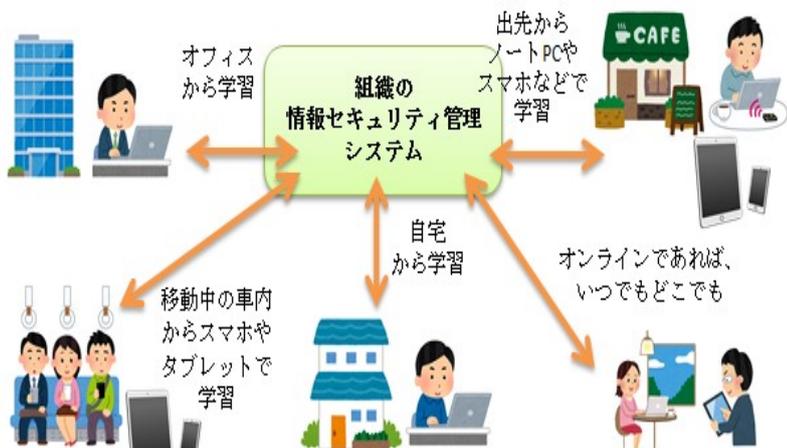
- コストの低減。

組織の情報セキュリティ管理の学習や情報資産管理のための作業は、Webワークフロー方式を活用することで、時間を節約します。

- データの秘匿化（オプション）。

社員の学習履歴・試験結果、情報資産台帳、また台帳に紐づけられる法人決算書類や基本契約書、さらにはお客さまからお借りしているデータなども、本システムの対象にもできます。これらの中で、秘密にし、また改ざんしていないことを示すことが必要な場合には、特別に秘匿処理を行うことができます。

◎ いつでも、どこでも学べます。



組織の情報セキュリティ管理の学習は、Webを介して行うので、いつでも、どこでも、利用することができます。

※機密保持のため、社内ネットワーク以外で利用できる機能は学習機能に限られます。

なお、学習対象である「組織の情報セキュリティ管理」を「**ISMO (イスマ)**」と呼ぶこととします。

◎ 情報セキュリティ管理の運用プロセスをワークフローでサポートします。

情報セキュリティ管理を進めるには社内に組織体制をつくることから始めます。ISMOシステムは、これら一連のプロセスをワークフローでサポートします。2者監査の場合でも、第3者監査（認証）の場合でも、役立ちます。下の表がこの一連のプロセスです。

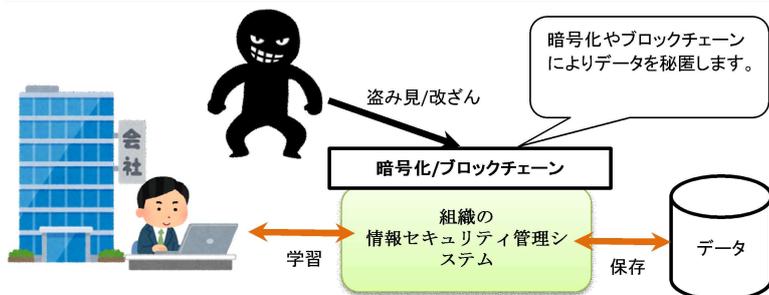
学習と資産管理作業		運用プロセス	体制確認	組織の維持管理 (PDCA)
学習	情報セキュリティ管理：基礎編→応用編	⇔		
情報資産管理	情報セキュリティ委員会設立→試験運用	⇔	◇	
	情報資産台帳、また文書類作成	⇔		
	社員からの情報収集	⇔		
	維持管理運用	⇔		

1) セキュリティ委員会が独自に作成するもの
 情報セキュリティ基本方針 → 情報セキュリティ対策管理規程 → リスク管理規定 → 機密保持契約書(従業員) → 利用許可ソフト分類、サーバ室入退出記録簿、セキュリティエリア図、業務委託基本・個別契約書、委託先情報セキュリティチェックシート、機密保持契約書、教育実施記録。

2) 社員から集める情報
 重要情報管理台帳 → ソフトアカウント管理表、ハードウェア管理表 → ネットワーク図。

3) 体制確認後の運用プロセスの維持管理
 運用プロセスの維持管理のためにはPDCAを回すのがよいとされています。ISMO Webワークフローシステムは、これをフォローします。省力化が図れます。

◎ データの秘匿化（オプション）。



ISMOシステムは、必要に応じて、
 ①他に見られてはならないデータの暗号化、
 ②改ざんしていないことを第三者保証するためのブロックチェーン化が可能です。